

3.4 第1回懇話会の議事録

1) 挨拶

(地域活力創生部 領家部長)

生駒市は周辺が山に囲まれており、森林の活用は課題である。平成31年度の4月に施行された新たな森林管理システムでは、市も森林管理の主体として適切な管理をしていくこととなっており、財源として森林環境譲与税が充てられる。市としては、まずは現況調査を行ってきており、後程詳しく説明する。

生駒市のゴールとして3つの方針があり、1つ目は森林の適切な管理。道路や家屋に被害を与えてしまうような危険木を、もっと管理していく必要がある。荒れているところは間伐等で管理する。2つ目は、生駒市は住宅地と山林が近いため、鳥獣害の被害が多発している。その被害を抑制するため、里山をバッファとして整備できないか。3つ目が、竹林の利活用。地元の茶筌を始め、手入れをされた竹を使っていきたい。

一定の調査をしてきたという事で、この度懇話会を開いて、専門家の皆様や住民、各団体の方々の意向をお聞かせ頂きたい。特に財源がきているとはいえ、これだけ広い山林を全て市が管理するというわけにはいかないの、山林を保有されている所有者の方に適切に管理して頂くのが前提。やむを得ず市が管理しないといけないという場合には、どういうところから管理を進めていったらいいのか、優先順位を付けないといけない。あるいは先程言った里山とか竹林の活用となると、ただ伐るだけの話でなく、住民や事業者の人と考えていけないといけない。そういう意味で幅広い人々にお集まり頂いた。

本日はこれまでの調査等の状況、森林環境譲与税の状況などを情報共有させて頂いた上で、一番急ぐのが危険木の伐採の優先順位。どのような状態になっている木を伐っていかないといけないのかと、そういった木であっても、どういった場所を優先に管理していくべきかの意見を中心にお聞かせ頂ければと思う。今後も本懇話会は続くので、その中で里山とか竹林の話も進めていきたい。初めてという事で、まずは色々な意見が欲しい。

2) 参加者および事務局紹介

本日所用のため、東氏は欠席。

3) 座長および副座長選出

互選により泉氏を座長、井上氏を副座長に選出。

4) 議論

議論に先立ち、森林現況を調査した(株)森林コンサルタントよりプレゼン説明。プレゼン資料は巻末の 6. 説明資料に掲載。プレゼン後、泉座長より議題に対して進行。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

最初の会という事で、各自の活動と何か問題意識を持って参加しているという事があれば聞いておきたい。その後に、開催要綱の中での我々のミッションは何か、その辺りも確認しながら進める。

(赤地氏) : いこま里山クラブ 代表

本拠地は生駒山麓公園。生駒山麓公園は樹林地を含む公園。危険木に関しては、今年度実施。ナラ枯れの大径木を 20 数本処理。半分以上完了。素人で危険を伴うが何とかやった。

あとは樹林地の草刈り。道路に面したところはネザサがすごい。そこを刈ったら捨てられた電化製品が出てきた。それも除去したら希少なキンランなどが見られて驚いた。毎年刈っていかないといけない。あとは矢田丘陵の遊歩道の草刈り。これもしっかりと刈らないとすぐ元に戻る。道路幅も狭くなる。

里山整備については、生駒市地域で育む里山づくり事業に参加して 5 年になる。矢田丘陵の民有地の一画を整備している。当初は入るのも大変で、倒木などでジャングルのように。少しずつ整備して、子供も入れるような状態になった。整備したところの利活用として、「ぼうけんの森づくり」を進めている。傾斜がすごい、それを逆に利用してロープを張ると、子供が喜んでいる。非常に人気。

高山の竹林についても、5 年間の林野庁の補助で実施。既に事業は終了。そこも荒れていたが、少しずつ整備をして今はタケノコが取れるような環境に。継続して、タケノコを取りながら整備を続けている。

伐採した木や竹をどうするのか。もったいないと思っている。名簿上は 30 数名。高齢化で実際活動出来るのは 15, 16 名。

(浅井氏) : 社会福祉法人いこま福祉会 理事長

法人 20 周年。知的障がい者の支援。個人的には、障がい児教育のためハンガリーで 6 年勉強。帰国してから、北海道で障がい者乗馬の手伝い。馬を飼いながら有機栽培をし、馬糞を畑の肥料に。循環型の福祉。

地域の繋がりを大事に活動している。今は高山の方で畑をし、近畿大学の卒業生と農業法人で連携。近畿大学の敷地で畑を借りて、5年ぐらい。1年に2回、農業体験。子供達は目を輝かせながら体験している。

生駒市の協力で、廃園となった高山幼稚園を農業の加工場として使用。地域の方と味噌造り。去年の4月から喫茶店も始めている。

赤地氏の竹林活用に協力したいと、去年5年に和歌山でメンマ造りの勉強、今年も3月に九州に研修。高山幼稚園を活用していく。

今年の5月には、赤地さんに協賛して頂いて、竹林に子供を連れていき、利活用の実践も行う。

(新居氏) : いこま棚田クラブ 代表

今年で20周年。毎週1回の活動で、累計1,000回の活動。自治会と連携している。メンバーは70名で、グループを畑・草刈り・花畑・山の管理(山守)に分けている。毎週30名、9:30~14:30。自治会は年配の方が多く近所しか整備が出来ないので、足りない部分を補助している。ならコープと家族連れで土を触るイベントなども。

現地シニアのコミュニティがコンセプト。「いこま山のようちえん」にも参加して頂き、棚田を利用した活動もしている。

山の間伐は10月~3月。毎年0.5ha。非常に傾斜がきついで、1ヶ月単位で線引き。課題として、山の中へマイカーで行っているが、高齢化で車を運転しない人も増えて今後は交通手段がなくなってくる。

(磯貝氏) : グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

緑の市民委員会というのが10数年前にあって、その委員をしていた。今のみどり公園課が主催。生駒市内の公園や里山林を案内してもらって、荒廃を認識。整備が出来ないか確認したが、そこはみどり公園課として触らないという方針。なので、委員のメンバーで2008年に講座を開いた。5回の講座。25名の市民が応募し、活動を呼びかけ18名が参加。当時のメンバー7名と合わせて活動開始。街中の緑を守る保全活動がコンセプト。

生駒市は調整区域が6割と多く、市街化区域は4割。その4割の市街化区域でどんどん緑がなくなってくる。どうやって残すか。現況調査をし、残したい緑の報告をしているが、既にその半分はなくなってしまった。

委員会で色々提言しても、結局誰がするかという問題が残る。なので、自分達で少しずつでも整備する。整備対象は、生駒市からお借りしてるイモ山公園。5haの中の2ha。他に1.2haの真弓どんぐり公園、白庭台横の第六緑地。全て荒廃した竹林。月3回の整備活動。

目的は刈るだけでなく、景観含めた生態系の保全。会員に徹底するために、活動前にミーティング。目的を理解してもらおう。会員は27名で、事情があり実際に活動出来るのは10名前後。団体名の由来は、里山というのは自然の宝庫。

(井上副座長)：近畿大学 教授

大学卒業後、最初は鳥取大学で勤務、その後熊本県立大学へ。近畿大学にきて4年が終わるところ。ほぼコロナの期間で、地域での活動はほとんど出来ていない。

大学では3名の先生と共に森林について指導。研究は森林資源、竹林資源。これをどう使うかより、前段階でどういう資源があるかを効率的に把握する方法。ドローンや地上レーザの工法開発。竹を資源として活用するには、産業ベースでどれだけ資源量が必要か、供給が可能か。竹1本当たりのバイオマスの量、竹林全体のバイオマスの量を評価したり、コンピュータでシミュレーションしたり。

(小北氏)：農家区長会 北地区 会長

農業を営む水路の管理。色んな団体があるので、その組合組織として、農業用水の元となるくろんど池周辺の管理組合を運営している。くろんど池周辺の森林、遊歩道の管理。メンバーは12名で、月1回の活動。海の日に25名全員で活動。

(松山氏)：公募市民

生まれも育ちも大阪の千里。ニュータウンなので、整備された緑の中で育った。生駒市は整備していない緑で、最初は驚いたが、エネルギーを感じた。生き生きとした緑。緑豊かだと今も思ってるが、今日参加された方々の活動により維持されていると知った。

趣味で茶道。茶筌はほとんど高山産と聞いていた。生駒といえば竹。竹といえば茶筌。竹が実は問題になっていると初めて知った。

(森岡氏)：公募市民

生まれも育ちも高山町。田んぼも山も所有している。数年前に、ナラ枯れの後に倒木があり、近所で被害。自身の山も確認しに行くと、竹藪の中に恐らく檜の大木が。今後の対策を認識できる場になれば。

(森本氏)：近鉄グループホールディングス株式会社 総務部 部長

総務部でCSRの肩書。企業の社会的責任を考える。近鉄としては、生駒を大切にしている。コロナで事業がガタガタになり、改めて公共性や地域性の大事さを思い知った。なの

で、コロナの最中、2020年の秋に出来たチーム。SDGsの観点で、世の中や地域の皆さんにどう貢献出来るかを考える。

奈良県は山が多い。一次産業の衰退が著しい中、高齢化で人口も減ってる。沿線としても大変。近鉄自身の山もあり、整備が必要。生駒という具体的なステージで何か出来れば。環境貢献の問題意識がある。

(荒木氏)：奈良県森林技術センター 森林管理市町村連携化 課長

森林経営管理システムや森林環境譲与税の活用についてのアドバイスと、奈良県が保有している山、いわゆる県有林の管理をしている。矢田丘陵にも県有林があり、個人的にチェーンソーで刈って整備する事もある。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ありがとうございました。この懇話会のミッションとしては、生駒市さんに意見を纏めて申し出る事、と考える。意見を求める事項は開催要綱の第2条にある。里山林や街中の森林整備、以前に小紫市長も里山だけでは困る、街中も重要と仰っていた。どう里山と繋ぐか。

竹林はやはり高山。どう産業と繋げるか。通常の竹林整備とは異なる。これらの考え方を纏められれば。ご理解頂けたか。

(森本氏)：近鉄グループホールディングス株式会社 総務部 部長

里山とはどこを指すのか。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

里山と奥山の違いは、里山には水田農業が関わってくる。水田農業には山が必要。そういうところは共有林、入会林、村持ち山になる。草山であり、薪山である。農業と一体として維持管理、集落が管理する仕組みが出来ていた。奥山は天然林を中心として、50年に1回人が入る。林業専用。そういう違い。

森林簿では、里山にはマツ林が多かった。人が触るほど、マツはよく育つ。ただ、放置されたマツはマツ枯れで全部やられていった。生駒市の森林簿は使い物にならない。ただ、かつての林相を示している。その後、常緑の広葉樹に代わったが、それも薪や炭なら細かい方がいいが、使い切れずほったらかし。太ってきて、結局ナラ枯れにやられてしまった。マツ枯れにやられ、ナラ枯れにやられた。それが今の里山の風景。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

それでは、プレゼンにもあった生駒市として取り組みたい内容について議論を進める。一度、生駒市さんから説明を願う。

(前川主幹) : 事務局

A～Dランクについて、木の傾きだったりで分類を考えている。そして右側にどういう場所にあるかを示している。例えばAランクの木であっても、4つの見方が出来る。掛け算の理屈で書いている。

(植島課長) : 事務局

危険木の処理については、早急にやっていきたい。どこから伐っていったらいいか、優先度をどう決めたらいいか。この考え方についてのご意見や、ランク分けのご意見、また右側の分け方についての適切さを議論したい。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

総論から急に現実の課題が下りてきた。確認したいのは、ナラ枯れの対象は除くとあるが、ナラ枯れ被害防除事業の事か？

(植島課長) : 事務局

その通り。ナラ枯れについては現行の補助金を利用して頂いて、それ以外の危険木について処理していくとしたい。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

ナラ枯れ被害防除事業の財源は？

(植島課長) : 事務局

森林環境譲与税である。

(磯貝氏) : グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

以前ナラ枯れの調査をして伐ったりしたが、民間の人と話をしても、全然費用は足りないと。言う。こういうのが助成してますだけでは、前に進まないとは私は当時思った。それはどう考えるか？

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

これは財源論の話になる。これも森林環境譲与税か？方向としては新たな要綱を作るのか？

(植島課長) : 事務局

ナラ枯れ以外の危険木を刈るのも、所有者と話をする。どうしてもできない場合、森林環境譲与税を使って伐りに行く。磯貝氏の話も含め、その辺りは柔軟にしないといけないと思う。

(磯貝氏) : グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

その辺は幅があると理解した。完全に切り離されると、今後の話し方として問題が出ると思う。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

これは生駒市独自の枠組か？他所のを習って作っているのか？

(植島課長) : 事務局

生駒市独自のものである。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

要綱を作る時に、森林所有者責任はどうされる考えか？通常は役所として危ないから伐って下さいと指摘し、それに対して補助金を出す。どうしようもないから市が代行して伐採する、その費用を所有者に請求する、というやり方もある。このところで、所有者責任を市がどうするのかという仕分けは結構難しい。この制度設計のところは、生駒市で考えて頂いて、我々としては置いておく。

こういう危険木がリアルで問題というのは事実だと思う。通学路の問題であり、公道も危ない事もあるし、電線に架かるということもある。ただ、電線の場合は関電さんの責任だろうが。基準を作って、ある種公的管理の方へ行くと？所有者に言ってもしょうがないから、市役所が代執行していくという事でどうか、というところのご提案だと思うが。その点、生活論と技術論で見られた時に、この仕分けについて率直なご意見を。

(領家部長) : 事務局

先程の所有者への意向調査のところだが、まずは現況調査から危ないところを基準を基に振り分けをしていく。例えば通学路を一番に危ないとした場合に、通学路にかかるところの所有者をまず特定して、どういう管理方針かを確認し、基本は所有者に伐ってもらう。その管理方針がどうしても無理だ、という場合に役所が出る、という話なので、民間の所有者に何もせずに全て市が伐りに行く、というわけではない。なので、この基準に合えば民間所有者は自ら伐る。

財源は生駒市が出すわけではなく、一律に皆さんから1,000円を集めるので、税負担する方からいうと、基本は所有者が伐らないとダメだという気持ちがあると思う。全てを代執行していくというわけではないので、そこだけご理解願う。

ただ、細かくどうしていくか。お金の面で半分は出すなど、我々も考えていかないといけない。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

制度としては難しい。市民生活上、危険という面だけで限定してこちらは議論していく。急なご提案だったんですが。

(松山氏) : 公募市民

教えて頂きたい。危険度は、4ランク×4の16というチェック項目。私の家に倒木があった場合にどう仕分ければよいかわからない。せめて3ランクであれば、人間はその感覚が一番取りやすい。4にした理由と、そのイメージを教えてください。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

A～Dランクというのは緊急度か？優先順位というわけではないのか？

(植島課長) : 事務局

3年間で市内全域の現況調査をして、航空写真で樹種や危険木については現地調査も入って写真も撮っており、それは一番早く行かないと危ない、今度台風が来たら倒れるんじゃないかと。ただ、いきなり全ては行けないので、とりあえず4種類に分けてみた。3種類でもいいので、そういうご意見頂ければ。

例えば右側の順番で、今年予算であればここまでいけるなどか、どこから伐っていけばいいかという順位付けをしていけたら。

(井上副座長)：近畿大学 教授

このエビデンスは？危険度というのは、根っこの具合とか、皮の具合とか、枝の具合とか目視でランクを考えるのか？

(植島課長)：事務局

それも直径がいくら、角度がいくらという基準がない。何かご意見あればこちらとしても参考にさせて頂く。

(浅井氏)：社会福祉法人いこま福祉会 理事長

毎週生駒山に登っているが、生駒山から信貴山に向かうと、生駒は結構整備してくれているが、三郷はしてないとかぶつぶつ言いながら歩いている。ああいったところで木が倒れたとしても、私ぐらいしか歩いてなければレベルとしては大した事ないとか。ただ、なぜ倒れてきたかというのはよくわからないというはある。プロの方から見れば、倒れ方というのものはっきり根拠でわかるのか。

(植島課長)：事務局

基準がないので、見た目になるかと。今言われたように、山の中とかハイキング道とかよく電話がかかってくるが、やはり住宅地に隣接したところなど、通学路とか人の財産である家屋の横とか、そういったところは先に対応しないといけない。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

調査されて危険木は何本ぐらい見つかったのか？市内全域を見られたのか？

(中野氏)：森林コンサルタント奈良営業所 アドバイザー

取り急ぎは5箇所程度をピックアップしているが、山の中全域を見たわけではない。主要な道路沿いのみ。危険木というよりは、電線に架かっているなどの報告を上げている。

(赤地氏)：いこま里山クラブ 代表

電柱は関西電力に言えばいい話。実際に枯れかかっているとか、倒れ掛かっているとかいうのを危険木というはず。それは何本ぐらいあったのか？

(中野氏)：森林コンサルタント奈良営業所 アドバイザー

5箇所の中で10本前後かと。

(赤地氏) : いこま里山クラブ 代表

10本前後で優先度を決めないといけない程度の財政なのか？一度に処理出来るのではないか？普通はそう思うが。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

今の意見では、まずしっかりした調査が必要という事かと。通学路であれば何本程度、財産に影響するものであれば、例えば住宅に対してはこれだけあるとか。これは台風で倒れそうとか、もう少し基礎データが必要。そうすると、それに基づいて議論が出てくれば、全体でそれに投ずる森林環境譲与税は何年間でどれくらい達しそうだとか。

そういう点で、今日は時間がない。こういう方向で危険論とか、最優先課題で身近な問題は市民には喜ばれる。ただ、それには実態調査をしっかりやらないといけないし、制度的な詰めを結構難しい事まで詰めていく必要がある。具体的な要綱作成に行くまでに、そういった事に森林環境譲与税を掛けられたらよいのでは。それには市役所の職員だけでやるのは無理。森林コンサルタントや県のアドバイス、私の方でもお手伝いは出来ると思う。制度論的なところも。

今日のところはそういったところでよろしいか？

(磯貝氏) : グリーンボランティア「いこま宝の里」 代表

みどり公園課で危険木処理を進めている。真弓どんぐり公園、イモ山公園、それから他の緑地公園の中で、道路から15m以内の高木を全て伐るという話。それは問題だと、全て伐るというのはないだろうと議論した。ただ、要は危険性があると。何本か実際に倒れたそうで、今後台風が来たりしたら危ないだろうと。予算の関係で順次伐っていく。そういうのも参考になるかなと。

(領家部長) : 事務局

ランクを分ける基準を悩んでいる。先生方に直接相談すべき話だったかもしれないが、要は倒れそうだという事だけでいいのか、自立はしているがこういう状態は早く伐った方がいいのはBとかCとか。

その基準が、磯貝氏の言うように高くて道路から何mなら状態とか樹種関係なく伐るとか。私も大阪なので、街路樹などはそれでいいと思うが、山で高木というと全てがそう。そこが迷っている。ご意見を頂ければ。

(浅井氏) : 社会福祉法人いこま福祉会 理事長

参考までに聞かせて頂きたいが、私有地で木が倒れ子供が怪我したと。それは所有者の管理責任という事で個人の損害賠償になるのか？行政が危険なのを把握していたのならば、もっと指導すべきだったと言われるのか？

(領家部長) : 事務局

今回新たな森林管理の法律が出来たことでその指摘はありえると思う。なので我々も調査した上で、所有者に通知をしていく。

(浅井氏) : 社会福祉法人いこま福祉会 理事長

本人はわからないが、危険度があるというのをちゃんと通知して、何かあったらこんな事になると説明する。だからなるべく自分達できちんと管理してほしいという事。ただ、勝手に市が伐るとあっちの木だけ伐ってとか言われるので、制度は難しいが、あまり民主主義で進めると緊急度に間に合わないなので、早く基準を決めたいという話か。

(領家部長) : 事務局

右側は、わかっていたら伐りに行けとその通りだが、問題はBとかCとか。見た目は何ともないがどうしたらいいというのを教えてほしい。

(森岡氏) : 公募市民

所有者の立場として、道路に近いところではないが、高山地区の山は全て高木がある。所有者も多分気にはなっているが、近所で伐った人の話を聞いても、100万や200万かかると聞く。色んな業者に聞いても、幅はあるが、それを個人が負担するとなったらもう売ろうかとなる。でも売れない。結局また大きな台風が来た時に倒れ、それが小屋などに倒れると損害賠償になる。そんな話を聞くと、持ってるだけで損。なので、出来れば道端で全て伐らなくても、上部のこれだけ伐れば被害が抑えられるとか、そういう知識が欲しい。どういう業者に頼んだらいいのかも教えてほしい。

枝一つでも大きい。それが落ちてきたら、下にある小屋とか倉庫に被害が出る。近所の人には気にしている。次の世代はもういない、始末してくれという人が多い。冊子などが欲しい。そして、伐った木や竹とか、出来れば利用してほしい。おおいに賛成する。いくらかの個人負担は覚悟してるが、伐採するのに1㎡とは何か？木の1㎡って？それもわからない。市の方から簡単な方針を作してほしい。大きな流れを作してほしい。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

こういう危険なところだけは公的にやるとするのは、制度設計的には楽。技術論は、これが危ないというのは、専門の造園業者とかは結構見極めると思う。樹木医とかもそう。制度設計と技術論も含め、今日は出発点として今後深めていく。懇話会のメンバーに求めても荷が重い。

(井上副座長) : 近畿大学 教授

専門から外れるが、危険度のランク付けを調べてみると、「ナラ枯れ発生後の枯死木の対応の基準」というのがあって、1～5のランク付けがある。こういうのを参考にしてみれば。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

リアルな話も重要。今後も議論はしたい。ただ、頭に置いておくのは財源論。生駒市は森林環境譲与税を充てていく。懇話会のベースは森林環境譲与税をどう活用していけばいいのか、という考えでよいか。

(荒木課長) オブザーバー

生駒市の森林環境譲与税は年間1,300万。徐々に増えてきている。今後も増えていくとはいえ、使い切れてない部分もある。基金として貯金している。それらも活用出来る。使い方は市である程度フリーに決める事が出来る。

(植島課長) : 事務局

基金積み立ては、令和4年度初めで966万。

(泉座長) : 愛媛大学 名誉教授

今、基金積み立てを有効活用するよう国からの圧力がある。いよいよ国民から徴収が始まるのに、使っていないという議論がある。国は基金取り崩しを至上命令としている。例えば、積み立て金は緊急的なものを使う、1,300万は継続的な管理に使っていくなど。危険木は緊急的なものとして、仕分けるのもありかもしれない。当然、1,300万の中には市として使いたい部分もあると思うが。

最後になるが、税金を支払う市民側の観点だけでなく、所有権の話も重要。例えば県有林を何かで使うなど。市有林は残念ながら少ない。今後、生駒市は市民のために市有林を増やす事を考えてもよいかも。学校林も少ない。もっと子供の頃から森林に触れさず事

も大事。共有林の実態はどうなっているか？一番荒れがち。よほどのしっかりした組織でない。個人の所有者は何人いる？どういう考えなのか？近鉄さんとも連携していかないといけない。この所有というところは、我々だけで話をしていてもダメ。そこで初めて生駒市としての森林整備方針が出てくる。

森林経営管理法では意向調査が出てくるが、その進捗は？

(前川主幹)：事務局

これからになる。

(泉座長)：愛媛大学 名誉教授

ぜひ、森林所有者がどういう考えを持っているのかを調査した上で、その森林所有者に市はどのような提案を持っていくのかを考えてほしい。

大枠として、今後の懇話会では、財源と所有者の事を頭に置きながら議論をしていきたい。

5) 閉会